

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態		必修	

教科書	第一学習社 高等学校 標準 文学国語	副教材等	第一学習社「高等学校 文学国語 学習課題集」
-----	-----------------------	------	------------------------

1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

○授業では先生が生徒に発問することがあります。積極的な学習態度は「主体的に学習に取り組む態度」ならびに「思考力・判断力・表現力」として評価します。

○単元の中で書く活動があります。また学習プリントや単元ワークを行うこともあります。いずれも「思考力・判断力・表現力」として評価します。

○定期考査は授業の内容を中心に出题されます。授業ではただ板書されたことをノートに写すのではなくしっかりと自分で考え理解しましょう。「知識および技能」「思考力・判断力・表現力」として評価します。

北海道恵庭北高等学校 2年文学国語				A 15時間					B 55時間					計 70時間						
年間指導計画（2単位）				単元名																
				4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1・2月	3月							
科目の目標				に化	デ「	がを	川	追の	関な	る作	戦	テ	心る	読						
(1) 知識及び技能				生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めること。	起す	ユ「	置理	柳	い心	係い	品争	にを	マ	を文	書の					
(2) 思考力、表現力、判断力等				深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを表現すること。	こる	ー	か解	を	情	性心	託題	を	を	引章	の記					
(3) 学びに向かう力・人間性等				言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通じて、人と人とのつながりを築くこと。	っ過	クの	れし	書	と情	の情	を	さ材	決	きを	録を					
学年				第2学年	担当	櫻井尊雄・中井桂子														
使用教科書				高等学校 標準文学国語 (第一学習社)																
指導領域				A 書くこと																
授業時数の計				15時間				6					6		3					
指導領域				B 読むこと	○	○	○		○	○	○		○							
授業時数の計				55時間	6	6	5		10	10	8		10							
指導事項																				
知識及び技能	(1)	A	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。			○														
		イ	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにすること。	○				○												
		ウ	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。										○							
		エ	文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。				○					○								
	(2)	A	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。								○									
		イ	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。			○				○					○					
		書くこと	A	文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。																
			イ	読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。												○				
	ウ		文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。				○													
	エ		文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直ししたりすること。										○							
	読むこと	A	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。	○																
		イ	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。			○														
ウ		他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。																		
エ		文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。									○									
オ		作品に現れているものの見方、感じ方、考え方を捉えたとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。					○													
カ		作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。			○			○												
キ		設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。											○							
教材名																				
※各単元の目標について				し「調	「デ	田「そ	「川	「相	「ナ	「き	句	「マ	「真	「読						
(1) 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。				い調	デュ	三そ	（柳	「棒	「ナ	「死	（テ	マ	「珠	（読						
(2) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値～他者や社会に関わる力」を高めること。				ん律	ーク	郎こ	）を	」内	「ナ	「ん	を	ハ	の耳	書の	録を					
※各単元の評価規準の設定について				じの	「江	にひ	を作	海	「井	だ男	マを	の飾	の記	録を	ま					
(1) 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する（知識及び技能）の指導事項の文末を「～している。」として示す。				るみ	香	の	み	郎	さし	子	め	の少	をま	と						
(2) 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する（思考力、判断力、表現力等）の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として示す。				子さん	織	席	よう			残	短	女	とめ	る						
(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強さ（積極的に、進んで、粘り強く等）、②自らの学習の調整（学習の見通しをもつて、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）、③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）、④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）を明示し、単元の目標や学習内容等に対して、その割合を示す。				い		が	（			は	俳									

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	履修年次	1年	2年	3年
						履修形態		必修	

教科書	第一学習社 高等学校 標準 論理国語	副教材等	第一学習社「標準 論理国語 学習課題集」 数研出版「評論速読トレーニング700」 桐原書店「セレクト漢字検定」
-----	-----------------------	------	---

1 学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 身に付けてほしい力

☐ 学びの価値を重んじる思考力	☐ あきらめずに最後までやり通す忍耐力
☐ 規律やルールを守り、目標を追求する行動力	☐ 多様な価値を認め、他者と助け合う友愛力

3 学習評価(評価規準と評価方法)

評価の観点	知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的、創造的に考える力や、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
評価の方法	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み	○定期考査、単元テスト ○学習活動の状況 ○ワークシートへの取り組み

4 先生からのアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方など)

- 定期考査は授業内容を中心に出题します。授業には集中して取り組みましょう。
- 不明な点や納得のいかないことは積極的に質問しましょう。
- 原則的に週の最初の授業で漢字の小テストを行います。
- 家庭学習(授業の復習、漢字学習、テスト対策など)を推奨します。
- 考査の点数だけでなく、一生懸命努力する生徒を積極的に評価し応援します。
- 忘れ物や提出物の遅れ、授業中の内職や居眠りは大幅なマイナスになります。

北海道恵庭北高等学校 2年論理国語				A 25時間			B 45時間			計 70時間														
年間指導計画（2単位）				単元名																				
				4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12・1月	2・3月												
科目の目標				間に生きている中で、理解し、活用し、伝えること。新しい感性を発見し、表現すること。	い捉え、観る、とが述べる、本や文、感化につい	微の数え方、筆者の立場、態度、意図、目的、効果などを分析し、評価すること。	のビレリという表現手法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	コく「叙比喩」の修辞技法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	る対比、関係の補綴を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	言し、葉に意味を知る筆者と多様な文章を書くこと。	読む人の興味、本題を示す多様な文章を書くこと。	数える、因果関係を構成する手順を把握すること。	因小論文を書くこと。											
(1) 知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。				生きている中で、理解し、活用し、伝えること。	い捉え、観る、とが述べる、本や文、感化につい	微の数え方、筆者の立場、態度、意図、目的、効果などを分析し、評価すること。	のビレリという表現手法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	コく「叙比喩」の修辞技法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	る対比、関係の補綴を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	言し、葉に意味を知る筆者と多様な文章を書くこと。	読む人の興味、本題を示す多様な文章を書くこと。	数える、因果関係を構成する手順を把握すること。	因小論文を書くこと。											
(2) 思考力、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝表現力、判断力等 え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げた				生きている中で、理解し、活用し、伝えること。	い捉え、観る、とが述べる、本や文、感化につい	微の数え方、筆者の立場、態度、意図、目的、効果などを分析し、評価すること。	のビレリという表現手法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	コく「叙比喩」の修辞技法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	る対比、関係の補綴を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	言し、葉に意味を知る筆者と多様な文章を書くこと。	読む人の興味、本題を示す多様な文章を書くこと。	数える、因果関係を構成する手順を把握すること。	因小論文を書くこと。											
(3) 学びに向かう 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯力・ にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国人間性等 の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を				生きている中で、理解し、活用し、伝えること。	い捉え、観る、とが述べる、本や文、感化につい	微の数え方、筆者の立場、態度、意図、目的、効果などを分析し、評価すること。	のビレリという表現手法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	コく「叙比喩」の修辞技法を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	る対比、関係の補綴を用いて、自分の考えや感情を表現すること。	言し、葉に意味を知る筆者と多様な文章を書くこと。	読む人の興味、本題を示す多様な文章を書くこと。	数える、因果関係を構成する手順を把握すること。	因小論文を書くこと。											
学年	第2学年	担当	櫻井尊雄・中井桂子																					
使用教科書		高等学校 標準論理国語（第一学習社）																						
指導領域		A 書くこと					○						○											
授業時数の計		25時間					4						21											
指導領域		B 読むこと																						
授業時数の計		45時間		6	6	6		8	6	6	7													
指 導 事 項																								
知識及び技能	(1)	A	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。				○			○														
		I	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、読み手を意識すること。			○			○															
		ウ	文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めること。					○																
	(2)	E	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。	○	○							○												
		A	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。																					
		I	情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。																					
	(3)	ウ	推論の仕方について理解を深め使うこと。									○												
		A	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。																					
			実社会や学術的な学習の基礎に関する事例について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。				○																	
書くこと	A	I	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。									○												
		ウ	立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。										○											
		E	多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。																					
		O	個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。																					
		K	文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直しすること。																					
			文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。	○																				
	B	I	文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。		○			○																
		ウ	主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。																					
		エ	文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。			○			○															
読むこと	オ	関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。								○														
	カ	人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な観点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めること。																						
	キ	設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関連づけて自分の考えを広げたり深めたりすること。										○												
				教 材 名																				
※各単元の目標について (1) 「知識及び技能」の目標及び、「思考力、判断力、表現力等」の目標については基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示す。 (2) 「学びに向かう力、人間性等」の目標については、いずれの単元においても当該科目の目標である「言葉がもつ価値へ他者や社会に関わる力」を考慮し、単元の目標や学習内容等に併せて、その組合せで示す。 ※各単元の評価規準の設定について (1) 「知識・技能」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する（知識及び技能）の指導事項の文末を「～している。」として示す。 (2) 「思考・判断・表現」の評価規準は当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する（思考力、判断力、表現力等）の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している。」として示す。 (3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、①粘り強く〈積極的〉に進んで、粘り強く等）、②自らの学習の調整〈学習の見通しをもつて、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）、③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）、④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）を含めて、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せで示す。				稲垣栄洋	「新しい地球観」毛利衛	田朝子	「数え方で磨く日本語」飯	田朝子	「数え方で磨く日本語」飯	階秀爾	「名所絵はがきの東西」高	智	「情けは人の・・」俵万	阿刀田高	「犬も歩けば棒に当たる」	か	「ヒトはなぜヒトになった」川真理子	(小論文を書く)						